

三陸の海とともに ～岩手おらほのおなごたち～

平成28年度地域政策研究センター(地域提案型・前期)

課題名：「歴史に学ぶ“女性と復興”～昭和三陸大津波と家族、共同体～総集編Ⅱ」
研究代表者：宮古短期大学部教授 植田真弘
課題提案者：岩手女性史を紡ぐ会
研究メンバー：伊藤工ミ子、植田朱美、祇園寺広子、花坂清美、山口照子（岩手女性史を紡ぐ会）
研究協力者：竹村祥子（岩手大学人文社会科学部）、梶座久子（ウイメンズスペース富山フェミニストカウンセラー）、柳原恵（お茶の水女子大学基幹研究員）

▼研究の経過

- ①平成24年度課題名「歴史に学ぶ“女性と復興～昭和三陸大津波と家族・共同体”
- ②平成25年度課題名「続・歴史に学ぶ“女性と復興”～昭和三陸大津波と家族・共同体」
- ③平成27年度、「津波をくつがえす～岩手おらほのおなごたち」（岩手女性史を紡ぐ会・会誌）として小冊子を作成。
- ④平成28年度、前年度の会誌の続編として「三陸の海とともに～岩手おらほのおなごたち～」（岩手女性史を紡ぐ会・会誌）を作成。

▼研究の概要

本研究では、水産業を生業とすることによって形成されてきた岩手県沿岸地域の家族・共同体のなかにあつて、地域の女性たちが昭和三陸大津波と復旧・復興過程、さらにその後の戦時体制に突入していく過酷な社会状況のなかで、どのような困難に見舞われたのか、さらに、それらの困難にどのように立ち向かっていったのかを、主に直接その時代を体験した女性たちに聞き取りを実施して纏めたものである。なお、本研究は昭和三陸大津波とその後を浮き彫りにして東日本大震災津波からの復旧・復興における教訓を得ることを目指したものである。

▼今後の取組み

聞き取りを中心にしたこれまでの調査研究の成果を教訓として、東日本大震災からの地域社会の復興に役立てる。

▼献辞と謝辞

語り手6名の故人のご冥福をお祈りするとともに御遺族のご協力に心から感謝申し上げます。



大津波三陸沿岸を襲う